

ときめき人

Tokimeki bito



夢は日本一の 畜産農家 家畜審査競技会 優秀賞

東和町・米川3区

佐藤 太洋さん

さとう たいよう
2001年生まれ 登米総合産業高3年

日本学校農業クラブ全国大会
家畜審査競技会(肉牛の部)

雌育成牛・雌子牛各4頭を目視
や接しながら比較し、総合順位
や部位ごとの優劣をつける体型
審査の正確さを競う。

(右)鹿児島県で開催された全国
大会で牛に触りながら審査に集
中する佐藤さん。



「全国で評価され、優秀賞をとれたことがうれし
い。いい経験になった」と笑顔で話す佐藤さん。

市内の兼業農家に生まれ、幼い頃から畜産業を
手伝ってきた。「農業高校の全国大会があると知
り、やるなら畜産で全国一になりたい」と、高校入
学前から農業クラブ全国大会で一番になることが
目標だった。3年生となった今年、牛を審査する能
力を競う家畜審査競技会(肉牛の部)県大会で、見
事2位の成績を収め、登米総合産業高では初の全
国大会出場を決めた。

全国大会は鹿児島県で開催、全国から89人も
の出場者が集まった。家畜審査競技会はいかに牛
を早く正確に審査できるかが勝負のポイント。「時
間との勝負だが、焦ったら絶対にうまくいかない。

よく周りを見て、今までもらったアドバイスを思
い出しながら確実に審査していくことを心掛け
た」と振り返る。結果は県内の高校生で唯一の優秀
賞に輝いた。「優秀賞はうれしいが、全国一になる
という目標を達成できず悔しい。この経験をこれ
からの人生に生かしていきたい」と前を向く。顧問
の高橋建一先生は「太洋は真面目の一言。休みの日
も自主的に牛の世話に登校し、どの生徒よりも牛
という時間が長かった」と舌を巻く。

「今後は岩手県の農業大学に進学し、より専門的
な知識を学んで、兄貴と慕っている小野寺正人さ
んのように、登米市で全国和牛能力共進会で日本
一になれる牛を育てたい」。

さらに大きな舞台へ、新たな挑戦が始まる。

編集後記

▼今回は、ライフスタイル
に合わせて生活する場所を
選択した人たち取材。自
然の中で生活できることが
本当に幸せそうでした。若
いときは都会に憧れていた
こともありましたが、季節
の風や匂いを感じられ、子
どもたちの元気な笑い声が
聞こえてくる今の生活に幸
せを感じています。(高橋)

▼先日、高校生が職場体験
として、広報紙の取材の様
子や記事の作り方などを見
学しに来ました。見学に来
た高校生は、すごく真面目
で、学ぶ姿勢や物事に真剣
に取り組む姿など、逆にこ
ちらが学ばせてもらいま
した。これからも初心を忘
れないようにしていこうと
思います。(三浦)

▼広報は、広報公聴係で編
集しています。係名に「広
聴」とあるように、市民の皆
さんの声を大切にしていま
す。10、11月は各町域、さまざ
まな年代の皆さんの話を聴
く機会に恵まれ、皆さんの
知りたいことが伝わる広報
作りをしなくてはとあらた
めて感じました。(小野寺)



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)

<https://mail.cous.jp/tomecity/>

